



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

宝となる言葉

子供たちの心をどのように育てていきたいか・・・一つの考え方として、アメリカインディアンの教えについて紹介いたします。

批判ばかり受けて育った子は非難ばかり
します

敵意にみちた中で育った子はだれとでも
戦います

ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋
になります

ねたみを受けて育った子はいつも悪いこ
とをしているような気持ちになります

心が寛大な人の中で育った子はがまん強
くなります

はげましを受けて育った子は自信をもち
ます

ほめられる中で育った子はいつも感謝す
ることを知ります

公明正大な中で育った子は正義心をもち
ます

思いやりのある中で育った子は信仰心を
もちます

人に認めてもらえる環境で育った子は自
分を大事にします

仲間の愛の中で育った子は世界に愛をみ
つけます

(「アメリカインディアンの教え」

加藤諦三 著)

子供たちが、自分に自信をもち、前向きに生きていく力を育てたいと思いますし、他者との関わりの中で、感謝する気持ちを大切に育み、たくさんの愛に包まれている

ことに気づいてほしいと思います。そして不完全な人間同士ではあるけれど、一人一人の心の奥底には、誰もがよりよく生きたいという思いがあることを知り、自分を大切に、そして仲間を大切にしながら、日々を過ごしてほしいと願っています。

そのために大切なことの一つとして、温かな言葉をたくさん使うこと、積極的に温かな言葉を出していくことを心がけていきたいと思います。また、お互いに使っているたくさんの温かな言葉を見出して、一人一人に返していきたいと思っています。

先日、給食を食べているとき、4年生の児童が鍵を返しにきました。その際、その子が発した言葉に職員室にいる教職員で、「素晴らしいね。」と話していました。ドアをノックした後に「お食事中、失礼します。鍵を返しに来ました。」との言葉。丁寧で、礼儀正しい態度に、教職員の笑顔がこぼれました。また、2年生の生活科では、グループの仲間とおもちゃランドの準備をしている時、一人の子が「うまくいかない。」とつぶやくと、「代わろうか。」という優しい言葉が返ってきました。その言葉を返してもらった子は、笑顔になり、そばで聞いていた私自身も心が温かくなりました。

お互いの中で生まれる、相手を思いやる温かな言葉は、当事者だけでなく、周囲の人の心を明るくしてくれます。言われて嬉しい言葉を一人が使えば、学校全体で465の言葉が集まります。ありがとう・応援してるよ・大丈夫・ごめんなさい・どんまい…たった一言、一秒の言葉が宝物です。